

京安全通信 ～安全な学校生活を目指して～



令和 6年 9月

其の四「防災について考える①」(地震・台風編)

京都市教育委員会事務局 体育健康教育部

～南海トラフ地震(いざという時に備えよ!)～

京都市立中学校教育研究会 安全教育部会

夏休みも終わり、いよいよ2学期が本格的にスタートします。まだまだ残暑が厳しい時期ですので、熱中症にはくれぐれも注意しましょう。さて、今回のテーマは「防災について考える①」です。夏休み中の8月8日には、宮崎県南部で最大震度6弱の地震が発生しました。気象庁は、「南海トラフ地震」が発生する可能性が平常時より高まっているとして、南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」を発表しました。その後は、今のところ大きな地震が観測されることはありませんでしたが、「南海トラフ地震」は、近い将来高い確率で発生すると言われています。京都での被害がどう予想されているかを踏まえ、いざという時に備えるようにしましょう。



「南海トラフ地震」(いざという時に備えよ!)



「南海トラフ地震」とは・・・?

南海トラフは、日本列島が位置する大陸のプレートの下に、海洋プレートのフィリピン海プレートが南側から年間数cm割合で沈み込んでいる場所です。この沈み込みに伴い、2つのプレートの境界にはひずみが蓄積されています。過去1400年間を見ると、南海トラフでは約100～200年の間隔で蓄積されたひずみを解放する大地震が発生しており、近年では、昭和東南海地震(1944年)、昭和南海地震(1946年)がこれに当たります。昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年近くが経過しており、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まっています。

「将来の地震発生の可能性」

地震の規模 : M8～M9クラス

地震発生確率: 30年以内に、70%～80%

右の図は、各地の震度を示したイメージ図です。京都府内でも震度6強の揺れを観測する予想がされています。いざという時に備えることがとても大切です。避難場所の確認や、避難に必要な物の準備をするなど、今できることをしておきましょう。また、被災した時には、家族で集合する場所を決めておくなど、家族で約束事を決めておくことも大切です。

震度予想イメージ



「南海トラフ地震臨時情報」

南海トラフ地震 臨時情報

発表 条件

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

キーワード

調査中

巨大地震警戒

巨大地震注意

調査終了

- 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合
- 南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合
- 想定震源域内のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50 km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合
- ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
- 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合



「台風シーズン到来!」(台風にも備えよ!)



台風への備え 5箇条

①家の外の備えを行う(大雨が降る前、風が強くなる前に済ませましょう)

- ◇窓や雨戸はしっかりと鍵をかけ、必要に応じて補強しましょう。
- ◇側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておきましょう。
- ◇風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、屋内へ格納したりしましょう。



②家の中の備えを行う

- ◇非常用具を確認しましょう。(懐中電灯、携帯用ラジオ(乾電池式)、救急用品など)
- ◇室内からの安全対策をしましょう。(窓ガラスに飛散防止フィルムやテープなどを貼る、カーテンやブラインドを下ろすなど)
- ◇水の確保をしましょう。(断水に備えて飲料水を確保したり、浴槽に水を張って生活用水を確保するなど)
- ◇非常用食品を準備しましょう。(乾パンやクラッカー、レトルト食品、缶詰など)



③避難場所の確認を行う

- ◇学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しましょう。
- ◇日頃から家族で避難場所や連絡方法などを話し合っておきましょう。
- ◇避難するときは、持ち物を最小限にして、両手が使えようにしましょう。

④気象台が発表する「台風情報」、「警報・注意報」など情報の入手を行う

- ◇気象台では、台風の影響が考えられる場合や雨などにより重大な被害が発生する恐れがあるときには、「台風情報」や「警報・注意報」を発表します。テレビやラジオ、気象台ホームページから最新の情報を入手してください。

⑤台風接近中は不要な外出は控え、危険な場所へは近づかない!

- ◇雨で増水した小川や側溝は境界が見えにくくなり、転落事故などが発生します。また、山崩れ・がけ崩れも起こりやすくなります。日頃は安全と思われている場所でも油断せず、危険な場所へはむやみに近づかないようにしましょう。
- ◇台風が接近し暴風となると、風により物が飛ばされたり、飛んできた物にぶつかったり、車が転倒したりするおそれがあります。また、風に煽られてドアや扉に手や指を挟まれるなどの被害も発生します。不要な外出は避け、台風が過ぎ去るのを待ちましょう。また、海上や海岸付近では台風接近前から波が高くなり、台風が通過した後もしばらくは波が高いことが多いです。台風接近時は海上や海岸付近に高波を見に行くなど危険な事はやめましょう。



※ 参考: 気象庁 HP



「熱中症にも気をつけよう」



9月~11月頃の見通し



残暑

厳

しく



気象庁の3ヶ月予報では、9月と10月を中心に平均気温は全国的に平年より高く、東日本や西日本の太平洋側では雨量が多くなりやすいと見込まれています。そのため、気象庁は「残暑が厳しく、秋の訪れが遅くなる見込みのため、油断をせずに熱中症対策を続けてほしい。また、湿った空気が入りやすい上、台風の時期が続くため、大雨への対策が大事になる。最新の気象情報に留意してほしい」と呼び掛けています。引き続き、適切な水分補給や休憩の確保、少しでも気分が悪く感じたら友だちや先生に伝え、保健室へいくなど、熱中症には注意しましょう。

※ 参考: NHK NEWS WEB